



立命館大学

スポーツ健康科学部

Ritsumeikan University Sport And Health Science

2023



Collaboration Resiliency Edge Attraction

健康と幸福、 世界の平和を探究する 「スポーツ健康科学」

スポーツ健康科学部では「ひと」が健康的で豊かに暮らすことを実現するため、生物学的な「ヒト」の最小単位である細胞や遺伝子から、臓器、人体、さらに「人」の集合体である集団まで、社会の幅広い課題について、多様な学問分野を連携させ、科学的に解決策を導き、人々の健康、幸福な社会、平和な世界を創造することを目指します。

Message from Dean



いま社会で、「well-being」という言葉が取り上げられています。この言葉は、「健康で安心し、幸せな生活が過ごせる状態」のことを意味します。人々の健康と幸福、世界の平和を探究するスポーツ健康科学は、まさに、ひとと社會における「well-being」を実現する学問です。
日常生活の様々な場面で、「なぜ?」「どうしてだろう?」「本当なのか?」といったことを感じることが多々あります。それが「問い合わせ立てる」ことや「思考を巡らす」ことにつながり、「学びの出発点」が生まれます。私たちとともに、「well-being」を実現するための「知」をプロデュースする世界へと漕ぎ出しましょう。

立命館大学スポーツ健康科学部 学部長
長穂 仁

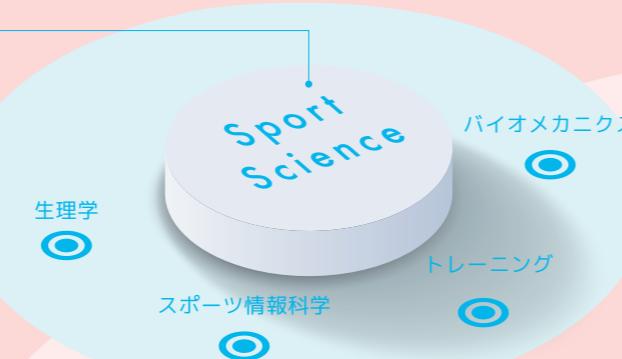
CREAに込める想い…

スポーツ健康科学部では、人々の健康、幸福な社会、平和な世界を創造し、志高く未来を拓く人を育てたいと考えています。そのため、学部では、“CREA”というビジョンを掲げて、皆さんのキャンパスライフにおける様々な学修活動を推し進める方向性を示しています。“CREA”とは、「産む、創造する、引き起こす」などの意味をもったラテン語“creare（クレアーレ）”を語源にもつ現代イタリア語で「創造」を意味する言葉です。それぞれの頭文字には、“Collaboration（異分野を紡ぐ）” “Resiliency（主体的に挑む）” “Edge（智を極む）” “Attraction（ひとと組織が輝く）”という想いが込められており、皆さんには、“CREA”を体現できる人になってもらいたいと思います。

スポーツサイエンス領域 Sport Science

科学と実践の融合を通じた
スポーツパフォーマンスの向上

スポーツパフォーマンス向上に資する生理学 / 生化学 / 力学 / 工学領域の最先端知見やその融合について学びます。スポーツパフォーマンスの向上に資する専門的知識と実践力を身に着け、加えて他領域の学びとの連携の中でスポーツ健康科学の未来を拓きます。



スポーツ教育学領域 Sport Pedagogy

いまここから、
人と社会と共に育む

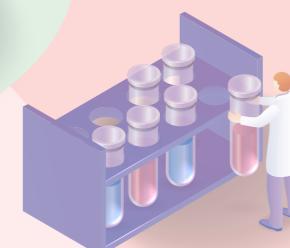
文化・歴史・哲学・倫理等の人文学とスポーツ教育学・コーチング学・スポーツ心理学・栄養スポーツ教育学等の社会科学におけるスポーツ教育学分野に関する理論や最新の知見を学びます。スポーツ教育の実践を基盤としながら、人と社会を他者や他分野と共に育みます。



4つの領域を横断し 学際的に学ぶ



生活習慣病予防
運動・栄養処方
スポーツ医学
健康増進



健康運動科学領域 Health and Exercise Science

身体活動を通じた人々の幸福、
豊かな生活の実現

人々の幸福、豊かな生活を実現する上で「礎」となる健康科学の理論と実践を担う学問領域です。健康の維持・増進に関する運動・身体活動や栄養の効果およびメカニズムを学んだ上で、個人や地域社会における健康問題、健康ニーズを把握し、人々の生活の質（QOL）の向上や疾病および傷害予防に貢献します。

スポーツマネジメント領域 Sport Management

つながる・つなげる
マネジメント

社会や組織、スポーツ、人がつながり合う・紡ぎ合るために必要な哲学・考え方やストラテジーについて学びます。新しい社会や組織のあり方、そしてスポーツの新展開を「創造」し、それを「発信・実現」します。



Ritsumeikan University
Sport and Health Science



厚底シューズはなぜ人気? 最新のテクノロジーで解明する ランニングフォームと身体への負荷の関係



陸上競技の長距離トップ選手が多く履いている厚底のシューズ。高いパフォーマンスが期待できるものの、脚部への負荷は大きくなるといいます。一方で、薄底のシューズはアキレス腱への負荷が大きくなります。どちらを選ぶべきなのでしょう？シューズの底厚によって何がどのように違ってくるのでしょうか？

現在、ランニングシューズの底の素材・形状とランニング時の負荷の関係について研究している長野明紀先生に、スポーツ健康科学部の施設で行われている調査の内容について聞きました。



モーションキャプチャとフォース
プレートで足の動きを分析

詳しい記事はWEBでご覧ください



長野 明紀 教授

「乳酸は疲労物質」はもう古い 筋肉や脳のエネルギー源 競技力アップにもつながる「乳酸」の話



普段スポーツをしない人でも「乳酸」という物質の名前は聞いたことがあるでしょう。疲労物質、あるいは筋肉痛の原因物質だと思っている人がいるかもしれません。しかし、それは大いなる誤解であり、乳酸はむしろ身体や脳に良い影響を与えてくれていることが最近の研究によって明らかになってきました。

乳酸が身体に与える影響とはどのようなものなのでしょう？運動と栄養が身体へ及ぼす作用の解明を通して健康増進や競技力向上をサポートする橋本健志先生に、最新の知見を聞きました。



運動時に筋肉から出てくる乳酸は
実は「万能薬」なのです

詳しい記事はWEBでご覧ください



橋本 健志 教授

あなたの“？”が世界を変える

探究心

一生ものの運動センス 10代前半までに鍛えておくべき 「動作コオーディネーション能力」とは？



子どもの体力低下が叫ばれて久しい今、水泳やサッカーなどの教室に早くから子どもを通わせなければと思う人がいるかもしれません。しかし、競技に特化したトレーニングだけでは身につかず、しかも10代前半までに鍛えなければどんな競技に進んでも高いパフォーマンスが発揮できないとされる神経系の能力があることを知っていますか？

一生の運動センスを左右する「動作コオーディネーション能力」。スポーツタレント発掘・育成の場でも重要視されつつあるその能力とはどのようなものでしょう？子どもの体力や運動能力の向上に関する研究を続ける上田憲嗣先生に聞きました。



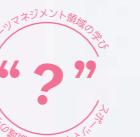
スポーツ教室に通わせるだけでは
運動センスは鍛えられない
かもしれません

詳しい記事はWEBでご覧ください



上田 憲嗣 准教授

引っ張る？サポートする？ 個人が成長し、チームとしても 高い成果を上げるためのリーダーシップとは？



スポーツ選手にとって、チームの雰囲気やチームメイトとの人間関係は、競技へのモチベーションや技術の向上、精神的安定にも関わるものではないでしょうか。そして、それらを左右するのが、チームをリードする監督やキャプテンの存在です。

今の時代、どんなリーダーが、どんなリーダーシップを発揮することが、個人の成長を促し、チームとしての高い成果にもつなげられるのでしょうか？関係性リーダーシップとチーム力向上に関する心理学研究を行う山浦一保先生に聞きました。



リーダーシップに必要なのは
「黄金の2軸」です

詳しい記事はWEBでご覧ください



山浦 一保 教授



チームの人間関係を心理学的観点から 紐解き、改善していく



西垣 りの さん 4回生
大阪府出身・立命館高等学校卒

自身の部活経験から興味を抱いた 「集団的効力感」

大学ではホッケー部に所属していますが、試合中は下級生が萎縮してチームのパフォーマンスが上がらないといった課題を抱いていました。自分が4回生になった時、どのように振る舞えばチーム力が最大化するか悩んでいたこともあります。ゼミで幅広い観点からの心理学や組織の問題解決について学んでいくうちに、チーム効力感について研究したいと思うようになりました。

チーム効力感とは、「このチームやメンバーどちらなんでも成し遂げられる」といった自信が生まれる状態のことをいいます。卒業論文では、実験的な方法で、複数の模擬集団に違うタイプのリーダーシップを介入させてチーム効力感に与える影響を比較する、あるいは実際のチームにアンケート調査を行って、チーム力が最も高くなるのはどういう

ときかについて分析しまとめていこうと思っています。研究の成果は今後のチーム競技に生かせるだけでなく、社会においても上司や同僚との良好な人間関係を構築する上で有効だと考えています。

IT業界で人々とつながり、 社会の課題解決を目指す

卒業後はさまざまな業界と関わりながら社会の課題を解決していきたいと考え、多角的に課題にアプローチできる通信インフラ企業に就職する予定です。なかでもオンライン診察や遠隔治療といったスマートヘルスケアの分野では、学部で学んだ医学などの専門的な知識が活きてくると思うので、場所にとらわれない健康のあり方を積極的に提案していきたいです。



森田 健太郎 さん 4回生
京都府出身・京都府立南陽高等学校卒

学部での学びを陸上競技に生かし、 高い目標に向かってチームをけん引

走法の研究を通して 部活の後輩に貢献したい

中学から続けている陸上を大学でも続けながら、競技に有効なスポーツバイオメカニクスを中心に学んでいますが、想像以上に幅広い知識を得て自らの競技に活かすことができています。

授業では専用の機材を使って肉眼では見ることのできない映像を見る能够性が得られます。卒業論文ではストライド走法とピッチ走法の動作解析を行い、どちらがパフォーマンスに直結するのか研究予定です。最終的には部活の後輩たちのパフォーマンス向上に役立つような研究に落とし込んでいければと思っています。本学部では部活やスポーツをやっている人もそうでない人も、さまざまな局面で生かせる知識を身につけることが可能だと思います。

「駅伝主務」という重要なポジションを担い 強豪校に挑む

現在陸上部では駅伝主務を担当しています。駅伝主務は主将と連携しながら駅伝チームの練習方針を決めたり、ミーティングをまとめたりするポジションで、大変ながらやりがいを感じています。元々人と話すのが好きなため、卒業後は営業やコンサルタントなどの仕事に就きたいと考えていますが、目下の目標は駅伝で関東の強豪校と勝負すること。丹後大学駅伝では現在四連覇中のため、駅伝主務としての自覚を持って全国大会でもチームをけん引していきたいです。

Sport Management

大切なのは「自分プラス誰かの力」。 周囲を巻き込み養ってきた課題解決力

授業で学んだ高齢化問題から 認知機能の研究へ

1、2回生の時にアスリートから高齢化問題まで幅広く学んだことがきっかけで健康運動科学の分野に興味を持ち、ゼミで認知機能について研究しています。中でも運動中の状況判断能力低下を防ぐための栄養に特化して研究しており、先日もココアフラバノール(ポリフェノールの一種)を使った実験に参加しました。エアロバイクを50分漕ぎ続けてもらわなければならいため、被験者を集めるのが大変でしたが、最終的には20人ほどの学生が集まり有意義な実験を行うことができました。

ゼミ以外でもオリターという新入生の生活をサポートする団体に所属しているのですが、何事も一人でやるのではなく、常に周囲を巻き込んで活動するよう心掛けられています。そうすることで他者貢献でき

る確率が高まり、社会問題を解決する力も身についていくと考えています。

食事制限がある人でも楽しめる 飲食料品を提案したい

大学卒業後は人々の生活に身近な業界で責任感とやりがいを持って仕事がしたいと考え、飲食料品メーカーに就職する予定です。高校時代に所属していたサッカー部がお菓子と炭酸飲料禁止だった経験から、食事制限のある人や健康志向の人でもストレスフリーで楽しめる飲食料品を提案していければ面白いと思っています。



小山 貴弘 さん 4回生
愛知県出身・愛知県立刈谷高等学校卒

Health and Exercise Science

3回生で目標を修正し小学校教員の道へ。 子どもの身体能力向上を目指す

スポーツ健康科学部は日々刺激を受けながら 自分の学びが深められる場所

元々保健体育の教員を目指しており、本学部も教育とスポーツに特化した学びがあるところに惹かれました。実際に入学してみると、学生それぞれがスポーツに限らず興味のある分野に進歩しているといった印象です。一方で、普通の大学生活では出会えないようなアスリートの学生も所属しているため、日々良い刺激をもらっています。

小学校の教員として体育授業に力を入れたい

現在は中・高的教員免許取得に加え、小学校教諭免許状取得プログラムを受講中です。2回生までは小学校の教員免許については視野になかったのですが、コオーディネーション能力*について学ぶうちに小学生と関わりたいと考えるようになりました。

卒業論文では登下校が児童に及ぼす身体的影響について研究する予定です。私は小学校に片道1時間もかかる地域に住んでいましたが、近所の子どもたちが皆、持久走が早かった過去から得たアイデアです。

アルバイト先の学童保育にも色々な通学方法の子どもたちがあり、彼らの通学手段は変えることはできないけれど、体育の授業の質を上げていくことで身体能力の差をなくすことはできると考えています。小学生の時期は人間の基盤を作る上でとても大切な時期なので、自分が関わることで心身共に彼らをサポートしていきたい。私の最終的な目標はそこになります。

*状況を目や耳などの五感で察知し、それを頭で判断して具体的に筋肉を動かすといった一連の過程をスムーズに行う能力のこと



小宮山 葵 さん 4回生
広島県出身・広島県立広島国泰寺高等学校卒

Sport Pedagogy

学部の4年間の学びを通して、 社会で活躍するための基礎力を養成する

系統的なカリキュラムで低回生時には基礎的学力を鍛えるだけでなく、1回生秋学期より専門的な科目を学び始め、高回生時には多様な関心や目指す進路に応じて学びを深めます。

4つの領域（スポーツサイエンス領域・健康運動科学領域・スポーツ教育学領域・スポーツマネジメント領域）からなる領域科目を横断的に学び、「理論」と「実践」の学びを応用し「分野を超えた挑戦」を実践します。



最先端の機器を使用したプログラム



学習段階に合わせ、各プログラムをバランス良く配置したカリキュラム 自然科学と社会科学を網羅した総合的な視点からスポーツと健康にアプローチします。



※正式な科目名ではなく、科目的特性が分かりやすい名称に置き換えて表記している場合があります。

※2023年度以降入学生用のカリキュラムです。内容は予定であり変更の可能性があります。

学び・プログラム

PBL 科目

自分のテーマでスポーツ健康科学する

PBL (Project/Problem Based Learning) は、スポーツ健康科学部で学んだ知識とスキルを実践の現場で活用する授業です。2回生の1年間を通じ、自分のテーマを持ってプロジェクトをつくり上げていきます。実際のスポーツ競技のパフォーマンス分析や健康指導に関わるアセスメント、運動実施に伴う生理応答や運動と認知機能の関係、子どもたちにスポーツを教えるプロジェクトやチーム・マネジメントを実践するプロジェクトなど、各自の関心のあるテーマを突き詰め、社会的・学術的に意義のあるプロジェクトを生み出すことを目標としています。さらに、このプロジェクトの経験を3・4回生の専門演習・卒業研究に結実させていくことができます。

プロフェッショナル・キャリア形成科目

キャリア形成と学びの融合

スポーツ健康科学分野におけるより高度な専門性を身につけ、習得した知識とスキルを実践で活かします。また、スポーツ健康科学分野に関連する資格取得や実践に不可欠な知識とスキルを身につけ、自らのキャリアを切り拓くために必要な知覚と感性を磨きます。

グローバル・アスレティックトレーニング(GAT)プログラム

立命館大学の学士号と米国大学院の修士号を取得し
米国公認アスレティックトレーナーの資格取得を目指す
独自の留学プログラム

GATプログラムは、アスレティックトレーニング教育認定委員会 (The Commission on Accreditation of Athletic Training Education、以下CAATE)に認可されたアスレティックトレーニング教育プログラムを保有する米国大学院への進学・留学を積極的に支援する本学部独自の画期的なプログラムです。GATプログラムは、4回生春学期終了時までに立命館大学の卒業に必要な科目的修得を終え、夏ごろから提携先の米国大学院へ留学し、立命館大学の学士と各大学院の修士を取得することで、米国公認アスレティックトレーナーの資格認定試験の受験資格を得る事ができるよう設計されています。最大の特徴は、立命館大学で修得した科目が各大学院進学のための先修要件として認められるということです。これにより、通常個人で留学する場合と比較して、短い期間で修士号まで取得してアスレティックトレーナーの資格認定試験の受験資格を得る事が可能です。



WEB上に詳細情報を掲載しています。

GATプログラムの詳細やアスレティックトレーナーとは何か、そして立命館大学アスレティックトレーナーインタビューやGATプログラム卒業生のインタビュー等を紹介しています。



トップレベルの教員陣が、 高度な研究活動を展開

高度な研究実績を持ち、
国内外においてスポーツ健康科学
分野をリードする教員陣が揃って
います。

専門分野の域を超えて有機的に連
携し、高度な教育・研究を実践し
ています。



教員情報（詳細）はこちら！

教員の研究内容等詳しい情報は、
「スポーツ健康科学部ウェブサイト」

<http://www.ritsumei.ac.jp/shs2022/about/faculty.html/>

スポーツ健康科学部 立命館

検索

スポーツサイエンス



塩澤 成弘 教授

【専門分野】生体医工学・スポーツ工学
【研究テーマ】スポーツ・健康・医療分野の
生体計測センサ／デバイスに
関する研究

CLOSE UP!

生体計測のための 計測機器や手法の開発

健康維持や運動パフォーマンスの向上に
対して科学的なアプローチを行うためには、
詳細な心身状態の計測が欠かせません。そ
のための機器や手法の開発やその応用が研
究対象です。その中の一つとして、センサを
組み込んだ衣類型生体計測デバイス（スマ
ートウェア）の開発に取り組んでいます。ス
マートウェアは日常生活においても着用で
き、スポーツや日常生活の心身にまつわる
データを負担なく計測できます。日々の計
測値を知ることで、競技力向上や健康状態
の維持の研究に大きく貢献することを目指
しています。

人々が困難さを感じる「運動行動」につ
いて、その誘発メカニズムを解き明かすこ
とで、誘発・継続させるシステムへと繋げ、
人々の人生の基盤となる健康づくりへの貢
献を目指しています。



家光 素行 教授



伊坂 忠夫 教授

【専門分野】スポーツ生理・生化学
【研究テーマ】運動および栄養摂取の
効果と機序解明に関する研究



後藤 一成 教授



長野 明紀 教授

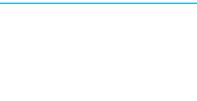
【専門分野】トレーニング科学
【研究テーマ】競技力向上および健
康増進のためのトレーニングやコン
ディショニングに関する研究



藤田 聰 教授



福谷 充輝 講師
橋本 健志 教授
【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】効率的な骨格筋筋力
を目的とした運動と栄養摂取に關
する研究



健康運動科学



村上 晴香 教授

【専門分野】
行動生理学・運動遺伝学
【研究テーマ】運動行動誘発を通した
健康づくりに関する研究

CLOSE UP!

運動行動の誘発メカニズムを知ることで 運動を介した健康づくりの推進

私たちは、「運動が健康によい」と認識し
ていながらも、それを行動として実行する
ことや、実行できたとしても継続すること
には困難さを感じます。ヒトが運動行動を
起こす場合、運動が“楽しい”“心地よい”
といった内発的要因に加え、“運動を行う
ことで痩せる”“運動は健康によい”といった
外発的要因などが関与します。この際、
ヒトの生体内では、分子生物学的・生理学
的なメカニズムの下、「運動行動」が認識・
決定・実行されます。

人々が困難さを感じる「運動行動」につ
いて、その誘発メカニズムを解き明かすこ
とで、誘発・継続させるシステムへと繋げ、
人々の人生の基盤となる健康づくりへの貢
献を目指しています。



真田 樹義 教授



篠原 靖司 教授

【専門分野】応用健康科学・運動方
法
【研究テーマ】生活習慣病予防のため
のテラメイド運動処方の研究
異分野の連携がもたらす価値創造



清家 理 講師



田畠 泉 教授

【専門分野】応用健康科学・社会医
学・老年学・医療福祉学
【研究テーマ】認知症の人、家族に對
する非薬物療法による効果検証研究、
認知症の人と家族のWell-being向上を
めざしたコミュニケーション創生に関するア
クションリサーチ(効果検証・人材育成)



橋本 健志 教授



岸本 康平 講師
寺田 昌史 講師

【専門分野】スポーツ医学・運動
神経生理学・バイオメカニクス
【研究テーマ】身体運動にともなう
下肢傷害(特に足関節捻挫とCAI)がど
のように人の「生活と健康」に影響を
与えるかを探る

スポーツ教育学



大友 智 教授

【専門分野】
スポーツ教育学・体育科発育学
【研究テーマ】
スポーツ指導場面・体育学習場面に
おける教授・学習に関する研究

CLOSE UP!

全ての子供に運動・ スポーツの価値の享受を

運動が嫌いな子供も好きな子供も、
等しく運動・スポーツの価値を味わい、
人生を豊かに過ごして欲しい。そんな
思いを実現したいと考えています。そ
のために、子供達の運動への取組、指導
者との会話、子供達同士の話し合い等
を分析し、法則を探求してきました。そ
れらを踏まえて、滋賀県、北九州市、高
知県、茨木市、群馬県等で先生を対象と
した研究や研修を進めています。その
結果、研修を受けた先生の指導により、
子供の体育嫌いが少なくなったとい
う効果を得ました。

スポーツマネジメント



種子田 積 教授

【専門分野】
スポーツマネジメント
【研究テーマ】
プロスポーツビジネス
モデルの研究

CLOSE UP!

ビジネスと社会貢献の両面から スポーツマネジメントを考える

私は2001年から、アメリカのプロ
スポーツとして最も成功を収めている
NFLとのパートナーシップを通してス
ポーツビジネスを研究してきました。
そこにはスポーツがビジネスとして自
立していくための、さまざま方法論
があります。一方で、スポーツを通じ
た社会貢献活動と、それを支える企業
の存在というのも、スポーツマネジメ
ントの重要な側面です。本学部は2012
年度、スポーツ文化振興を推進する一
般財団法人ユナイテッド・スポーツ・
ファンデーションと学術協定を締
結。ビジネスと社会貢献の両面から、
スポーツマネジメントを実践的に学べ
る環境をさらに充実させています。

教員の実績情報（抜粋）

経歴・受賞歴等

（田畠泉、家光素行）
●第22回 秩父宮記念スポーツ医・科学奨励賞 (2020)

（和田由佳子）
●平成30年度 日本スポーツマネジメント学会 学会奨励

賞 (2019)

（塚本敏人）
●Gatorade Sports Science Institute and American

College of Sports Medicine (GSSI-ACSM),
Young Investigator Award (2017)

●日本体力医学会、国際学術交流奨励賞 (1位) (2017)

●European College of Sport Science, GSSI Young
Scholar Travel Grant Award (2016)

執筆論文・書籍

（上田憲嗣）
●児童期における動作コーキネーションと体力の関係、
トレーニング科学. 31/1, 45-52, 2019

●短時間運動が児童の握力及びボール投げならびに運動有
能感に与える影響について、スポーツ教育学研究、
39/2, 1-11, 2020
（海老久美子）
●エッセンシャルスポーツ栄養学(編集・共著/市村出版), 2020

（大友智）
●中学校・高等学校 体育科教育法(共著/建帛社), 2021

●平成29年度小学校新学習指導要領ポイント総整理体育
(共著/東洋出版社)

（田畠泉）
●「4分で身体は変えられる」の科学～なぜ短時間・高強度運
動が人気なのかも～(扶桑社), 2020

（永浜明子）
●自閉症スペクトラムをめぐる二者の現象学的当事者研究：
『傷つきやすさ』と『特性』/ (MISC)研究論文、
『傷つきやすさの現象学』83-104(大阪大学), 2020

●「闇」に生む起る自閉症スペクトラム/大阪大学出版会、2020

（橋本健志）
●Effects of resistance training intensity on muscle
quantity/quality in middle-aged and older people:
a randomized controlled trial
Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle, 2022 共著

（山浦一保）
●Perceived goal instrumentality is associated with
forgiveness: A test of the valuable relationships
hypothesis. Evolution and Human Behavior,
41(1), (共著)58-68, 2020

●JAIOP35周年記念企画(講座本) 第2巻 人を活かす人事部門 (共著/北大路書房), pp.127-148, 2019
（和田由佳子）
●Brand Attributes Scale for Professional Sport Teams:
Measuring Strength, Favorability, and Uniqueness of
Team Attributes. in Byon, K.K., Brian H. Yim, B. H. and
Zhang, J. J. (Eds.), Marketing Analysis in Sport
Business: Global Perspectives, Chap 14., Routledge Taylor & Francis Group, 2022 共著.

正田 悠 助教

【専門分野】バフォーマンス科学、
認知科学
【研究テーマ】1)企業におけるデータ
利活用に関する研究。オープン
イノベーションに関する研究
2)消費者行動に関する研究。

塚本 敏人 助教

【専門分野】運動生物・社会的
行動学
【研究テーマ】1)舞台芸術における
演技者間ダイナミクスの解
明、社会的信頼性による對人
間相互作用の研究
2)舞台芸術の視点から理論化して改善策
を探る研究

藤江 隼平 助教

【専門分野】運動生理・生化学
【研究テーマ】運動・栄養介入による
心血管疾患リスクへの効果
と機序解明に関する研究

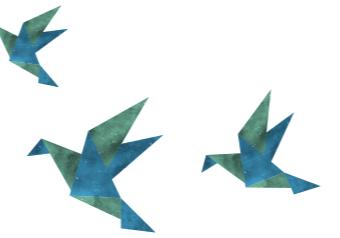
前大 純朗 助教

【専門分野】トレーニング科学・
神経筋理学
【研究テーマ】筋力トレーニング
に伴う中枢神経系および骨格筋
の適応

下澤 結花 助手

【専門分野】アステリックトレーニ
ング・スポーツ医学
【研究テーマ】身体運動に伴う障害
が及ぼす生活の質と健康への影響
と向法の究明

社会人基礎力とグローバルな視野を備えた人材には、多様な進路が広がっている



小島 ちなみ さん

株式会社ワコール
ウェルネス事業部 営業担当
大阪府出身・大阪府立寝屋川高等学校卒

卒業生の声
Voice01

在学中の軌道修正でたどり着いた “ウェルネス”という居場所

誰かのために直接何かをして、その人の人生を豊かにする仕事に就きたいと考えており、お客様に寄り添ったブランド展開をされているワコールに入社しました。ワコールと聞くと、皆さんインナーや下着をイメージされると思いますが、私の所属するウェルネス事業部はスポーツ関連の商品を扱っています。健康な体づくりを通してお客様に寄り添っていくことが方針の部署で、それに携わっていることをとても楽しく感じます。担当している直営店のマネジメント業務では、肉や骨、有酸素運動といった学部でのスポーツに関する学びがお客様へのアドバイスに活かされていますし、在学中にマーケティング

を専攻していたため、スポーツ市場の動向も身近に感じることができます。スポーツ健康科学部には体育教師の職に憧れがあり入学しましたが、自分の興味に合わせてマーケティング分野へシフトチェンジすることができたので、4つの領域からなる学びの体制はとても魅力的だと思います。

今は会社を通じてお客様のために何かをするという形ですが、将来は直接顔の見えるところでお客様のために何かしたいと考えています。



山本 和広 さん

シアトル・マリナーズ
マニュアルセラピスト
東京都出身・東京都立駒場高等学校卒

総合的・学際的な学びを通し、専門知識とその関連領域の幅広い基礎知識を養い、理論と実践の融合したカリキュラムで身につけた社会人基礎力やグローバルな視野を備えた人材は、さまざまな分野での活躍が期待されます。

卒業生の声
Voice03

異色の経験を生かし、メジャーリーグで 野球選手のサポートに励む

選手を最も近くで支えられるATC(米国公認アスレティックトレーナー)に興味を持ち、GATプログラム※に参加しました。通常の授業に加え、アスレティックトレーナーに関する知識を英語で学ぶのは大変でしたが、慣れてくると非常に楽しかったです。3回生の時には留学生専用のBKC国際寮で住み込みのスタッフとして働き、自らを英語漬けの環境に置くことで海外生活のイメージを膨らませていきました。

2018年に渡米し、その2年後にATCの資格を取得。サーカスをはじめとするパフォーマーのサポートに興味があったため、スポーツ現場以外にもBall State Universityのダ

ンス演劇学科などで経験を積みました。

現在はシアトル・マリナーズでマニュアルセラピストとして働いています。パフォーマーのサポートを経験したことで、ほかのトレーナーにはない視点で選手をケアできることが私の強みです。スケジュールも、求められる成果も、非常にタフな現場ですが、その中で選手が好成績を残せるよう最善を尽くし、チームの勝利に貢献することが今の私の目標です。

この学部は自分の積極性次第で可能性が広がっていきます。ぜひ皆さんもやりたいことにチャレンジしてみてください。

※ATCの資格取得を支援する立命館大学スポーツ健康科学部独自のプログラム(P.8参照)



中谷 望愛 さん

株式会社トランストロン
センシングビジネス部
大阪府出身・清教学園高等学校卒

卒業生の声
Voice02

会社の新たなサービスを 得意分野でけん引していく

大学時代は生体工学が学べるゼミに所属し、Apple Watchのような生体情報をセンシングする機械の開発を行っていました。先輩方や教授のお話を聞くうちに、次第に研究の面白さに目覚めてスポーツ健康科学研究科(大学院)への進学を決意。大学院でも水着型やアンダーウェア感覚で着られる心電計の開発を続けていました。順当に医療や健康機器の開発といった道に進むことも考えましたが、何か別の分野で挑戦してみたいという気持ちが強く、自らの学びを生かしながら新たなチャレンジができそうな自動車業界に進路を決めました。

就職活動では技術的な面だけでなく、コ

ミュニケーション能力を自分の強みとしてアピールしました。ゼミの先生からも自分の研究内容を誰にでもわかりやすく伝えることの重要性を繰り返し指導されていたため、その経験が社会に出てからも役立っていると感じます。

現在は主にカーセンサーの開発に携わっています。今後は、生体センシングによって自動車内の人の心・健康にアプローチするなど、学部で得た知識を活かして安心安全なクルマ社会の実現に貢献していきたいです。まだまだ入社3年目の新人ですが、これからも会社を引っ張っていくくらいの気概を持って業務に取り組んでいきます。

取得可能な資格

- 中学校教諭一種免許状(保健体育)
- 高等学校教諭一種免許状(保健体育)
- 健康運動指導士※1
- 健康運動実践指導者※1
- 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者※1
- トレーニング指導者※1
- BOC-ATC (the BOC credential of "Athletic Trainer Certified": 米国公認アスレティックトレーナー)※2

※1 認定試験の受験資格が得られます。

※2 受験資格を得るため、卒業後に米国提携先大学院へ進学し、修士号を取得する必要があります。

卒業生インタビュー



スポーツだけじゃない。卒業後の進路。
2020年にスポーツ健康科学部は10周年を迎え、学び成長した卒業生が様々な分野で活躍しています。
<http://www.ritsumei.ac.jp/shs2022/activities/>

就職分野と実績

スポーツ関連企業

塙野義製薬(株)・シスメックス(株)・ゼリア新薬工業(株)・東レメディカル(株)・日本赤十字社・ロート製薬(株)・久光製薬(株)・大塚製薬(株)・Meiji Seikaファルマ(株)・小林製薬(株)・旭化成(株) 他

メカニカル

パナソニック(株)・キヤノン(株)・テルモ(株)・(株)豊田自動織機・住友電気工業(株)・(株)LIXIL・(株)ワコール・日本たばこ産業(株)・京セラ(株)・豊田合成(株)・(株)ファーストリテイリング・帝人(株)・富士通(株)・花王(株)・オムロン(株)・日本精工(株)・マツダ(株)・積水化学工業(株)・(株)村田製作所・トヨタ自動車(株)・伊藤忠食品(株)・Apple Japan合同会社 他

金融・保険

出光興産(株)・大阪ガス(株)・関西電力(株)・(株)NTTドコモ・静岡ガス(株)・北海道電力(株)・中部電力(株)・北海道旅客鉄道(株)・西日本旅客鉄道(株)・九州旅客鉄道(株)・伊藤忠商事(株)・三井物産(株)・豊田通商(株)・日本航空(株)・全日本空輸(株)・(株)オリエンタルランド・日本電気(株)・(株)野村総合研究所・(株)オービック・楽天(株)・(株)日刊スポーツ新聞西日本 他

マスク

(株)ADKホールディングス・(株)エフエム東京・(株)京都放送・(株)TBSテレビ・(株)ディリースポート・東映(株)・東海テレビ放送(株)・(株)日刊スポーツ新聞西日本・(株)博報堂プロダクツ・びわ湖放送(株)・(株)フジテレビジョン・(株)U.S.E.N.(株)・リクルートコミュニケーションズ 他

大学院進学

スポーツ健康科学研究科 博士課程前期課程

最先端の教育・研究環境が、高度で充実した学びをサポート

最先端の教育・研究を実現するため、高度な研究に欠かせない充実した施設・設備を保有しています。興味のある研究を深めるために学部生のうちから、このような環境を存分に利用することができます。



① スポーツパフォーマンス測定室

野球やゴルフ、ランニングなどのスポーツ動作をはじめ、あらゆる動作の計測・解析が行える多目的スペース。複数の「ハイスピードカメラ」を設置しており、投げたボールの回転をスローモーションで観察するといった相対分析もできます。

② エネルギー代謝測定室

「壁面のセンサ」で人間の1日の正確なエネルギー消費量を測定することができます。

③ 低酸素実験室

低酸素環境下でのトレーニングが身体に与える影響を解析することができます。

④ 栄養調理実習室

システムキッチンや調理器具が整っており、競技力向上につながるメニューや栄養価の高い料理などを実際に調理することが可能です。またダイニング部分は、子どもから高齢者までを対象とした「食育」を実践する場として活用します。

⑤ トレーニング指導実習室

トップアスリートの筋力増加を想定した各種「トレーニングマシン」や「フリーウエイト機器」を完備。現場におけるトレーニング技術の習得をめざします。

⑥ スポーツ健康指導実験室

筋パワーや持久力の測定評価ができる「パフォーマンス測定システム」や、人間の体型を3次元で瞬時に解析する「3次元人体計測システム」など、多様な機器を設置しています。

⑦ MRシステム・骨密度測定装置

人間の体内の状態や脳内の動きを調べることができる「MRシステム」、骨密度や体脂肪、除脂肪量などの体組成を推定する「骨密度測定装置」を設置。これらを利用して、スポーツ健康科学分野に関連した高度な研究ができます。日本のスポーツ健康科学関連の施設では、国立スポーツ科学センターに並ぶ、最新鋭の設備となります。

⑧ スポーツ健康コモンズ

通年使用可能な25m公認プール(温水)7レーン、50mの屋外プール4レーンを設置した体育館は、実習科目や測定実験等で利用することができます。

奨学金

学生を全面的にサポートする充実の奨学金制度

立命館大学では豊富な独自奨学金を設け、学業はもちろん、スポーツ活動、留学など、自分の目標にチャレンジする学生を幅広くサポートしています。本学独自の給付制奨学金のほか、日本学生支援機構や公的機関・民間団体などの各種奨学金制度が充実。

→ 詳しくは立命館大学入試情報サイトをご覧下さい。[立命館 入試情報サイト](#)

検索

■スポーツ健康科学部 2023年度入試概要(予定)

募集人数 235名

※募集人数は、一般選抜、総合型選抜、
学校推薦型選抜等の合計です。

※以下の入試概要是変更される場合があります。

詳細は入学試験要項(AO選抜:6月下旬発行予定)で確認してください。

Webからダウンロード可能

立命館 入試情報サイト

検索

入試方式			試験科目・概要	試験地
総合型選抜	AO選抜 CREA方式	グローバル・アスレティックトレーニング型	【第1次選考】書類選考 【第2次選考】プレゼンテーション、個人面接	びわこ・くさつキャンパス
		教員熱望型		
		課題発見・解決型		
		数学的素養型		
一般選抜	全学統一方式(文系)		【外国語】(配点:120点) 英語(コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、コミュニケーション英語III、英語表現I、英語表現II) 【国語】(配点:100点)国語総合、現代文B、古典B(漢文の独立問題は出題しません) 【選択科目】(配点:100点) 政治・経済、日本史B、世界史B、地理B、数学(数学I、数学II、数学A、数学B(数列、ベクトル))から1科目選択	① ②
	理系型3教科方式		【外国語】(配点:150点) 英語(コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、コミュニケーション英語III、英語表現I、英語表現II) 【数学】(配点:150点)数学(数学I、数学II、数学A、数学B(数列、ベクトル)) 【理科】(配点:100点)物理(物理基礎、物理)、化学(化学基礎、化学)、生物(生物基礎、生物)から1科目選択	
	学部個別配点方式(文系型)		【外国語】(配点:150点) 英語(コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、コミュニケーション英語III、英語表現I、英語表現II) 【国語】(配点:150点)国語総合、現代文B、古典B(漢文の独立問題は出題しません) 【選択科目】(配点:100点) 政治・経済、日本史B、世界史B、地理B、数学(数学I、数学II、数学A、数学B(数列、ベクトル))から1科目選択	①
	共通テスト併用方式		【外国語】(配点:100点) 英語(コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、コミュニケーション英語III、英語表現I、英語表現II) 【国語】(配点:100点)国語総合(近代以降の文章)、現代文B 【大学入学共通テスト受験科目】(配点:100点)数学、公民、地理歴史、理科から高得点1科目を採用	
	後期分割方式	共通テスト併用3教科型	【外国語】(配点:100点) 英語(コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、コミュニケーション英語III、英語表現I、英語表現II) 【国語】(配点:100点)国語総合(近代以降の文章)、現代文B 【大学入学共通テスト受験科目】(配点:100点)数学、公民、地理歴史、理科から高得点1科目を採用	③
	共通テスト方式	7科目型	【大学入学共通テスト受験科目】(配点:合計900点) 外国語、国語、数学(配点:各200点、合計600点)と公民、地理歴史、理科から高得点3科目を採用(配点:各100点、合計300点)	大学入学共通テストの得点のみで判定
		5教科型	【大学入学共通テスト受験科目】(配点:合計700点) 外国語、国語(配点:各200点、合計400点)と数学、公民、地理歴史、理科から高得点3科目を採用(配点:各100点、合計300点)	
	共通テスト方式(後期型)	5教科型	【大学入学共通テスト受験科目】(配点:合計700点) 外国語、国語(配点:各200点、合計400点)と数学、公民、地理歴史、理科から高得点3科目を採用(配点:各100点、合計300点)	
		4教科型	【大学入学共通テスト受験科目】(配点:合計600点) 外国語、国語(配点:各200点、合計400点)と数学、公民、地理歴史、理科から高得点2科目を採用(配点:各100点、合計200点)	
試験地			①千葉(柏)・埼玉(大宮)・東京(市ヶ谷)・横浜・金沢・浜松・名古屋・滋賀(草津)・京都・大阪茨木・大阪南・神戸・広島・高松・福岡・大分 ②札幌・仙台・松本・静岡・福井・三重・姫路・和歌山・岡山・松江・山口・松山・北九州・熊本・鹿児島 ③千葉(柏)・埼玉(大宮)・東京(市ヶ谷)・横浜・金沢・名古屋・滋賀(草津)・京都・大阪茨木・大阪南・神戸・広島・高松・福岡・大分	

※各入試方式の出題範囲等は、入学試験要項で確認してください。

2023年度の入学試験に関する最新の情報・入試日程については
右記のURL(立命館大学入試情報サイト)より確認してください。

<https://ritsnet.ritsumei.jp/>



▶ 立命館大学スポーツ健康科学部公式WEBサイト

スポーツと健康を科学で解明 身近な？が！になる

<http://www.ritsumei.ac.jp/shs/>

立命館 スポーツ健康科学部 検索



twitter.com/spoken_rits/

学部イベントや受験生向け情報などの最新情報を随時発信しています



<https://www.facebook.com/rits.spoken/>

スポーツ健康科学部の日常をご紹介します



R
+R 未来を生みだす人になる。
立命館大学
RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

お問い合わせ

びわこ・くさつキャンパス スポーツ健康科学部事務室

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1

TEL. 077-561-3760

